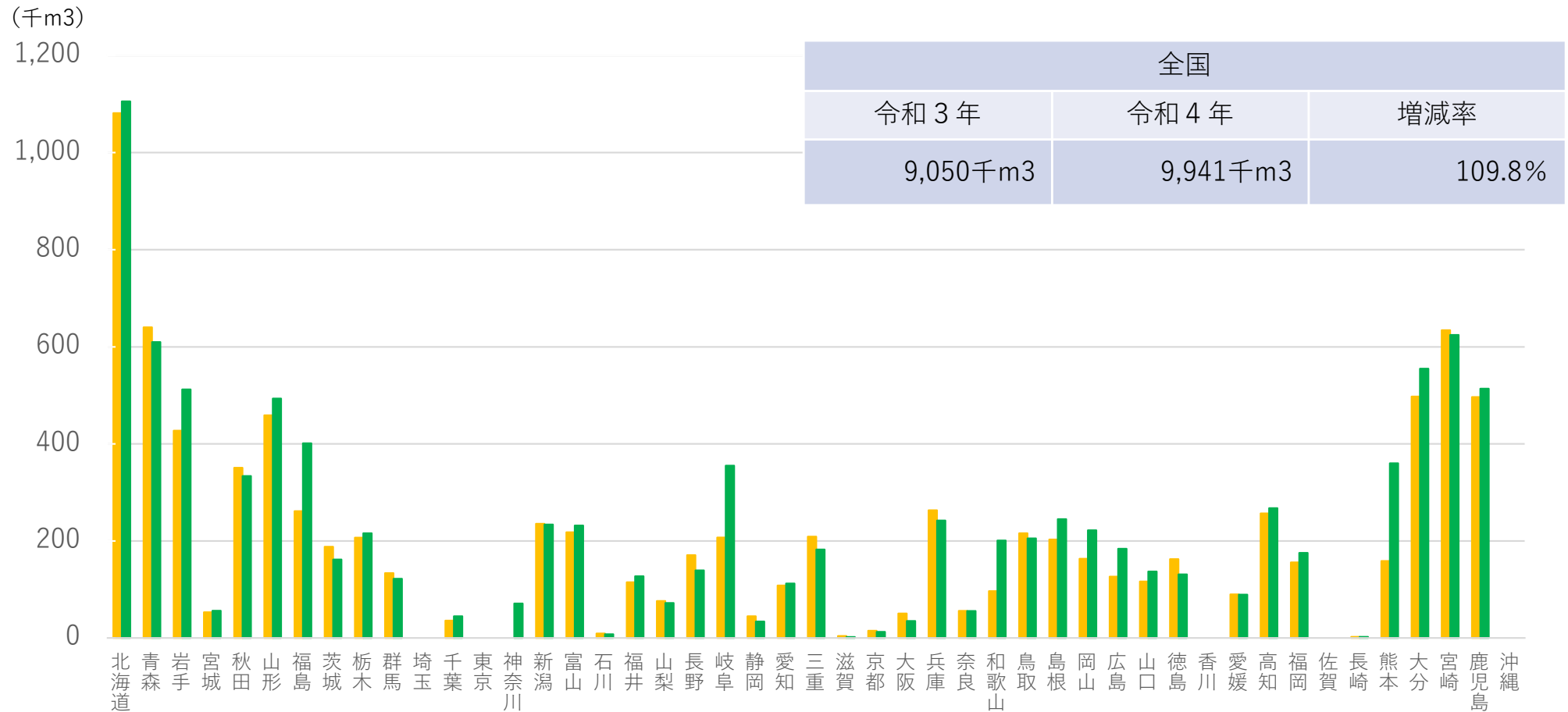


燃料用チップ(間伐材・林地残材等)の利用量(都道府県別)

- 令和4年における間伐材・林地残材等を原料とする燃料用チップの利用量は、全国では前年比約10%増加（22都道府県で増加、19県等で減少）。



注: 秘匿処理により、以下の都道府県は0としている。

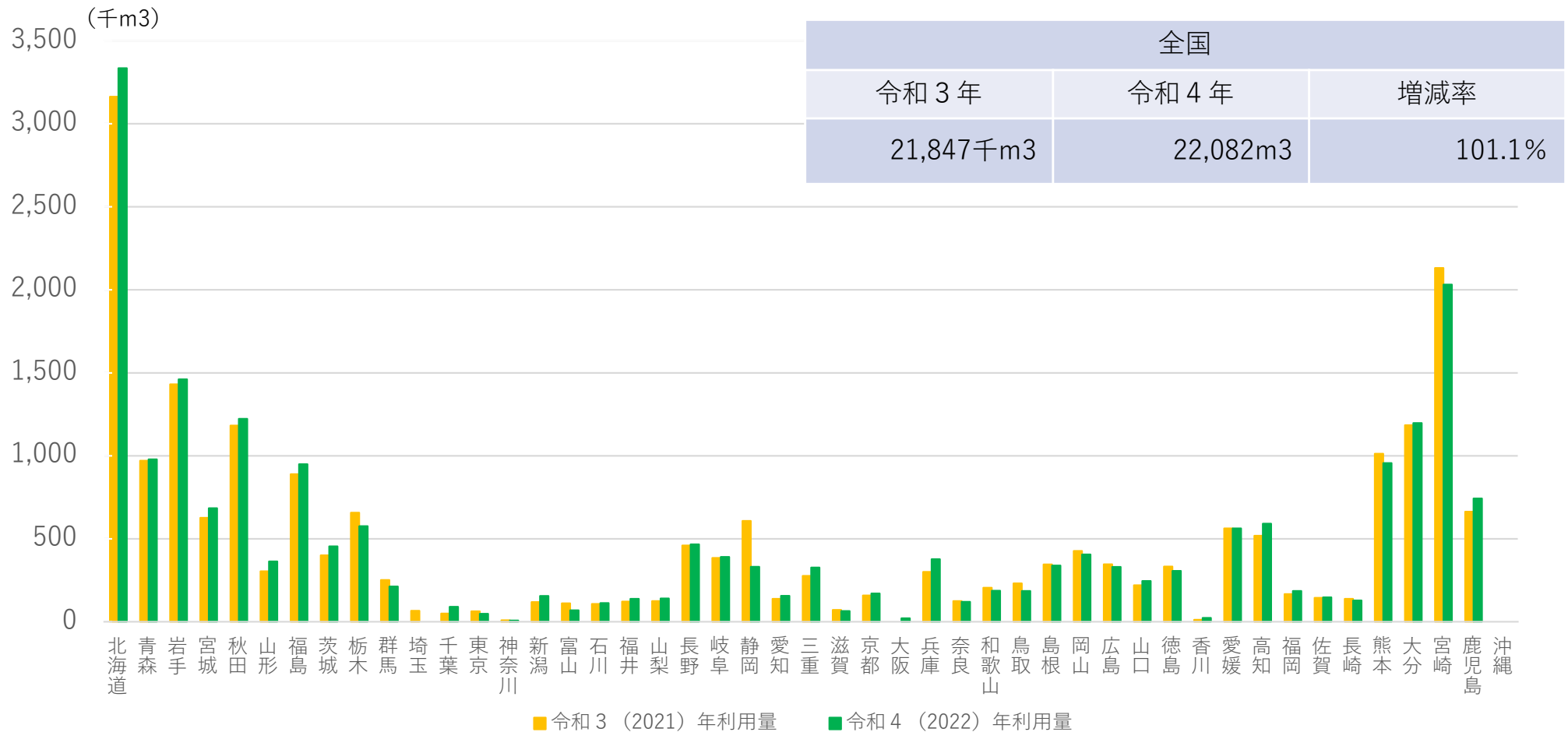
R3 埼玉、東京、神奈川、香川、佐賀、沖縄

R4 埼玉、東京、香川、佐賀、沖縄

資料: 農林水産省「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」

用材の素材生産量(都道府県別)

○ 令和4年の素材生産量（製材用材、合板用材、木材チップ用材の計。燃料材は含まない。）は、令和3年度と比較し、全国では約1%増加（26都道府県で増加、17県等で減少）。



注: 利用実績なしや秘匿処理により、以下の都道府県は0としている。

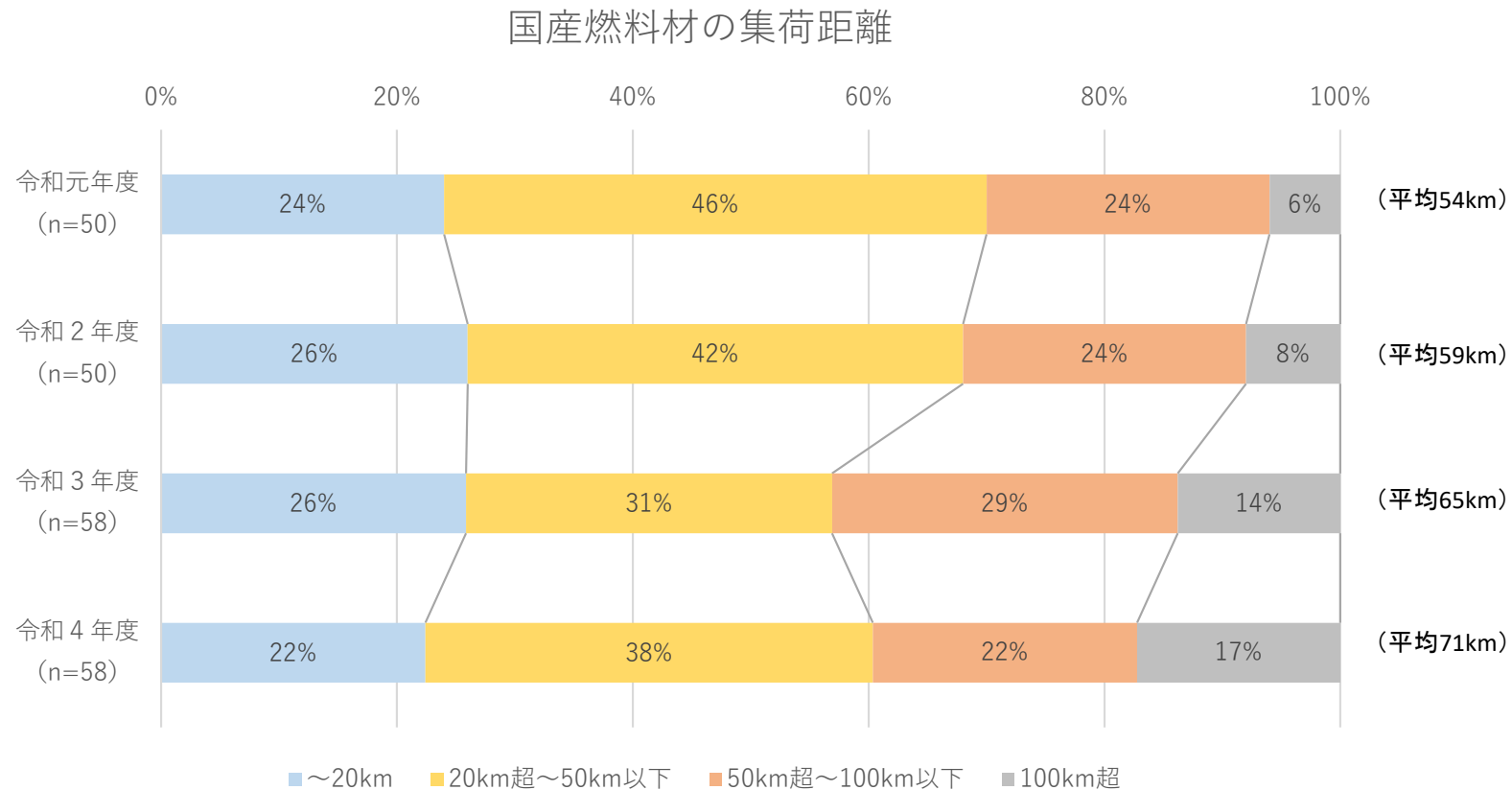
R3 大阪、沖縄

R4 埼玉、沖縄

資料: 農林水産省「木材統計」

燃料材の集荷範囲

- 国内での燃料材の集荷距離については、100km以下とする発電事業者が約8割（令和4年度）。
- 一方、集荷距離100km超とする発電事業者の割合が増加するなど、平均集荷距離は年々増加する傾向。



出典：(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「木質バイオマス燃料の需給動向調査」(通常集荷距離についての回答結果)